

愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町151 Tel:075-621-3849 Fax:075-621-1579

mail to:info@airinkan.net 振替:012020-5-39321

編集発行所:社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター <https://airinkan.jesusband.jp>

発行責任者:平田 義



122号

「一般社団法人

未来をつなぐ向島」

が誕生しました



誕生までの経緯

2017年3月に「向島まちづくりビジョン」が策定されました。それを契機に地域住民による様々なまちづくり活動が活発に展開されてきました。特に、旧向島中学校の跡地を「むかちゅうセンター」として活用することとなり、30数団体が利用を行い、地域コミュニティの拠点となっていました。

しかし、その「むかちゅうセンター」のあった旧向島中学校が事業者に売却されることになりました。地域活動を継続していくためには、新たな活動の場が必要となり、5街区集会所、5街区5棟101号、愛隣館地域交流室を使用していくこととなりました。その新たな活動の場を管理・運営することを目的に、2022年9月「地域交流スペース運営委員会」が設立されました。

その後、旧向島中学校の土地を購入した事業者が地域の交流スペース「むかちゅうひろば」を建設することとなり、その運用と管理をどうするかを「地域交流スペース運営委員会」内に「検討会議」を設け、議論を重ねてきました。

その中で、新しくできたむかちゅうひろばの管理だけでなく、向島地域が「向島まちづくりビジョン」で掲げた目標「多文化多世代共生のまち～暮らし心地のいいまち」を実現していくための、持続可能な地域の受け皿となる組織を立ち上げようとなり、「一般社団法人未来をつなぐ向島」が誕生いたしました。

若手理事の方にインタビューいたしました /

1. 富田 敏充さん

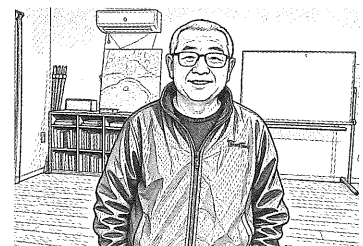
①プロフィール

お名前: 富田敏充さん

年齢: 53歳

お仕事: 運送業

向島居住歴: 53年



②地域で取り組んでいる活動など

- ・たんばラグビー・とんど(秀蓮校区)・御香宮祭礼、向島神輿会
- ・民生児童委員・向島秀蓮小中学校運営協議会理事

③検討会議に参加したきっかけ

- ・三木敏和さんからの突然の電話で誘われました

④検討会議に参加しての印象

- ・むかちゅうひろばを利用するにあたり、人それぞれ色んな理由や思いがあり、目的が同じとは限らないと感じた。
- ・皆が気持ちよく利用するには、もう少し時間をかけてアイデアを出し合う必要があると感じた。

⑤検討会議では若手と言われていますが...

- ・合ってます! 若手です(笑)
- ・検討会議に関わらず、地域活動に一生懸命取り組んでおられるのは高齢者の方が多く、我々の年代が参画することによって、新しいこともできるようになれば良いと考えています。

⑥一般社団法人「未来をつなぐ向島」が設立し、理事に選出されました。どのように受け止めておられますか?

- ・正直、最初は大層だと思いました。
- ・法人化することのメリットなどを聞き、今では必要だと思っていますし、理事に選ばれた限りは、「むかちゅうひろば」の運営をしっかりとしたものにしたいと考えています。

⑦法人として、大切にしていきたいことや、取り組んでいきたいことは何ですか？

- ・あまり難しいことはわかりませんが、この施設を利用する方々が気持ちよく使い、施設管理も金銭面で無理のないように維持、継続していけるようにしたいと考えています。
- ・あと、出来るだけ利用者が偏らないよう、「みんなが集える場所」ということを1番大切にしたいです。

⑧これからの向島地域への夢や希望などがありましたら

- ・「むかちゅうひろば」が向島5学区の情報共有する拠点となり、向島がワンチームになるのが夢ですね。
- ・人に頼ることは必要不可欠だと思いますが、向島に住んでいる私たちや私たちよりも下の世代がもっと地域行事に参加、参画できたらいいと思います。

2. 横山 亮太さん

①プロフィール

お名前：横山 亮太
年齢：43歳
お仕事：調理師
向島居住歴：43年



②地域で取り組んでおられる活動など

- ・地域に自店舗があり、そこを中心として、月1回のマルシェ開催。
- ・地域で開催されるイベント出店、ケータリング業など

③検討会議に参加されたきっかけ

- ・地元での高齢化と人材不足など、地域を牽引してこれた方々との交流をきっかけに参加しました。

④検討会議に参加されての印象

- ・これまで活動してこれた皆さんの変わらないバイタリティーに後押しされていると感じます。

⑤検討会議では若手と言われていますが…

- ・長きに渡り地元地域にて活動されてきた皆様との交流を経て、数字として若干少ないだけの自身よりも諸先輩の方が若々しく生きておられると思います。

⑥一般社団法人「未来をつなぐ向島」が設立し、理事に選出されました。どのように受け止めておられますか？

- ・今のところ、人生の約半分を組織に属して働いてきました。そしてコロナ禍に入り、完全に独立してお店を一人親方で経営しており、法人という枠にはまり、意思決定の自由と不自由である事をしばらく楽しめたらなと思っています。

⑦法人として、大切にしていきたいことや、取り組んでいきたいことは何ですか？

- ・あくまでも共有する開放された場所であり組織なので、取り組みの内容なども公共と福祉と一般が入り混じる複雑な場所なので、様々なバランスをとりながら取り組みたいです。

⑧これからの向島地域への夢や希望などがありましたら

- ・先ほどにもありますが、公共と福祉と一般が入り混じる複雑な場所ではありますが、この向島地域に移り住むと「なんか面白いかも」と感じて実際に移り住み、共に活動をしながら同じ志の皆さま地域に活力を起こす「むかちゅうひろば」をひみつ道具として活用して欲しいと切に感じます。

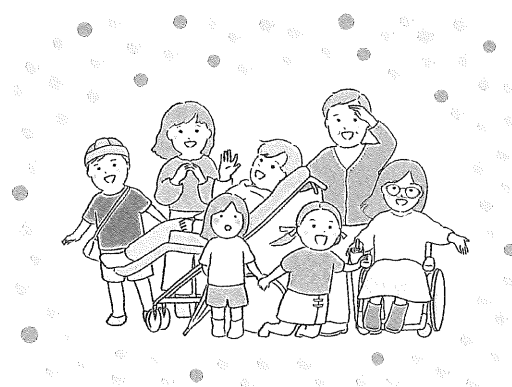
医療的ケア学習会「医療的ケアのある子の暮らしについて」

先日「医療的ケアのある子の暮らしについて」をテーマに、生後まもなく気管切開術を受け医療的ケアが必要となったAさんが、1歳で退院され在宅生活が始まった頃の様子や、通園・通学と生活スタイルが変化していく中で、子ども同士の関わりが増える事で、刺激を沢山うけAさんの世界がどんどん広がっていくお話を聞かせて頂きました。

現在は地域の小学校に通学されており、生活する中で走ると転倒して怪我をするのではないかと「なにかあったら…」と守られすぎるのではなく、Aさんのペースで出来る工夫や、周りの子どもたちのサポートや先生方の普段からの関わりの中で、子ども達を信じてくれたからこそ、運動会では100m走や15分を超える団体競技（先生のサポートはほんの少しだけ）では、Aさんのやり切った姿を見て子どもは子どもの中で育つ

と言う「ともに育つ」と言う事の大切さを感じるエピソードが、多く印象的で心温まる話でした。

これからも、笑顔がキラキラ輝くAさんの世界がどんどん広がりますように！
(四方真紀子)



2.11 平和集会

「外国にルーツのある子どもたち」を通して



2月11日に京都文教大学で先生をされている中国籍をもつ許燕華さんから「外国籍にルーツをもつ子どもたち」をテーマとした話を聞く学習会が行われました。

その中で、共感したことが2個あります。1つ目は、言語の壁です。私自身も在日韓国人で、小学校1年生から3年間、京都にある朝鮮学校に通学していました。日本語の授業はあったものの、学校では朝鮮語を使うのが日常でした。また家でも母や父、兄を呼ぶときは韓国語で呼んでいます。そんな中、小学校4年生やから地域の小学校に通うことになり不安の気持ちが大きかったのを覚えています。国語の教科書をスラスラ読むこと、算数の九九を日本語で言えるようになるのに時間ばかりかかりました。そのような経験があり、今の外国にルーツをもつ子どもたちもつ言語の面での不安は同じだったなと感じました。

2つ目が、周りのサポート、支援についてです。私自身は両親2人とも日本語は話せるので関係機関との連携に不安はありませんでした。しかし、私自身、地域の小学校に通っている子どもたちが日本語で習っていることを朝鮮語で習っていたので、学習面での不安はかなり大きかったです。そのような中、学校側のサポート、周りの理解は外国籍を持つ子どもたちにとってはその有無で安心感は大きく変わると思います。関係機関や地域との連携の大切さを感じました。

最後に、私自身も外国籍の1人なので、外国籍をもつ子

もたちの気持ちに寄り添えると思っています。なので、向島、自身の地域関係なく支援に関われたらと強く思った今回の学習会でした。(中村珠奈)

外国籍の子どもたちが日本の地域社会で安心して過ごすためには、人々が「多様であることが当たり前」という感覚を持つことが何より大切だと感じた。文化や言葉、習慣の違いを特別なものとして扱うのではなく、地域の豊かさを広げる要素として受けとめる姿勢が、明るい未来を作り出せるのではないかと考える。

人を「知ろうとすること」は、その第一歩だ。相手の国の文化や背景を知ろうとすることで、見え方は大きく変わる。知らないことから生まれる不安や誤解は、知る努力によって和らいでいく。次に「関係を作る」こと。あいさつや声かけなど、小さな関わりや積み重ねが信頼につながる。支援する・されるという一方ではなく、共に地域をつくる仲間として関係を築くことが大切だと感じた。そして「場所を開く」こと。誰でも安心して集える場があれば、その方たちは自分らしくいられる。誰もが歓迎されていると実感できる環境こそ、地域の本当の豊かさにつながる。

明日からできるこの三つは、特別な活動ではなく、私たち一人ひとりの意識と行動の問題だ。豊かさを忘れず、多様性を力に変えていく地域、社会でありたいと強く思った。

みんなで作りましょう！インクルーシブな社会を！(真下輝悦)



東日本大震災 慰霊 復興 平和の願いを込めて

Don't forget FUKUSHIMA 3.11 メモリアルキャンドル in むかいじま 2026

「東日本大震災から15年がたちます。その後も災害は続き、大切な人や故郷を失う悲しみは今も多くの人の心にあります。この時期に、防災や原発事故、戦争のない平和な社会について、家族や地域、仲間と語り合うきっかけにいただければと思います。」笑顔つながろう会代表高木久美子さんの呼びかけを中心に3.11メモリアルキャンドルin向島実行委員会が3/7(土)3.11にかたどられたキャンドルを点灯。60人ほどの方たちが集い、寒空の下、合唱や篠笛演奏、メッセージの記帳など、それぞれの形で、平和への想いを寄せ合う機会となった。お話の中で「キャンドルの明かりが心温まる灯になりますように」という言葉が印象的でした。(辻 早苗)



❖ 献金感謝 ❖

愛隣館研修センターを 支えて下さった方々

《月定会員》

荒田薫、伊吹寛子、浦由佳里、奥間早登子、
蠣崎達也・瑞恵、金山秋義、君村千代子、木
村美由紀、木村耕、北園由希子、菊地義則、
仕田中萌子、刀根史恵、中村香代子、中村直
子、西村美枝子、林栄子、福田尚子、松野正
信・清美、水本三玲、安野優美、山崎希充子、
藪内みのり、吉田有紀、秋山泰平、浅田将之、
穴田篤、井桁光、今村裕子、宇野僚介、太田
正人、片山かおり、加藤潤、笹原翔、佐藤雅
裕、四方真紀子、森本スパッター、田中涼
子、辻早苗、中野幹志、中村珠奈、那波雅俊、
野木歩美、野島共子、平田義、福野由記、藤
田有紀、丸山恵、村田幸寛、森拓平、森田勉、
山口武、横山利明

《指定献金(夏期特別、クリスマス、年会費)》

◆郵便振替(個人)

藤田早紀、五藤薫子、石若義雄、加藤輝勢子、
後藤一志、川西大祐、秋山幸美、斉藤哲、斉

藤宏子、喜多明子(2)、小林右奈、川上瑠夏、
刀根史恵、深村蒼依、金田松子、宮本真希子、
日高幸子・歩(2)、川中大輔、志藤修史、池
添素、しみずあさ、小久保正、鎮目恭輔、永
島鉄雄・正人・幸子、(匿名)、稲垣千午、富
士定夫、清水元介、竹内富久恵(2)、朴実・
清子、三矢佑悟、加藤奈穂、藤崎義宣、坂本
和子、梅柿佳子(2)、秋山眞一郎、藤田茉奈
美、富増猷児、栗原朗、ドラム・グエン・チ
ェウ・オアン(2)、藤田輝之、織田雪江、近
藤直子、長谷川昌代(2)、井口和佳、高橋秀幸、
梅田健也、劉梶本雪梅、神谷友之・恭子、武
澤信夫、近藤孝子、谷口元太・央太、藤田早
紀、(匿名)、川田よしみ、山内恵美、上野翔
太郎、薫正、秋山幸美、中西静子(2)、高橋
恒太、野島正光・共子、豊嶋寛子、森本典子、
東海林美希子、大西雅也、辻中徹也、小磯満、
村瀬義史、藤井嵯伎斗、福田光宏、小山矩夫、
小西望

◆郵便振替(団体)

同志社中学校、友愛幼稚園、枚方くずは教会、
岡本教会、同志社女子高等学校、啓明学院、
西小倉めぐみ教会、世光保育園、軽井沢追分

教会、原宿教会、錦林教会、同志社高等学校・
宗教部、京都丸太町教会、翠ヶ丘教会、新島
学園中学校・高等学校、宇治教会、洛陽教会、
草津教会、神戸教会、京都YWCA

◆その他寄付金(個人)

加来翔志(6)、寺本喜有(2)、安野優美(2)、
森雄子(2)、(匿名)(3)、松田美枝(2)、丹羽
健二(5)、溝口修造・智之、藤原一正・正人、
北野井咲、君村千代子、菊地義則、沼田礼子、
梅垣昌代、荒木健、神崎清一、金岡貴子、杉
山モト子、矢野眞理、藤田昌輝、小中謙吾・
福田竜一・宮坂亜矢子、畠田知佳、古川幸司、
古川敦子、齋賢司、西千寿子、村田明隆

◆その他寄付金(団体)

NAの会、書道教室、空の鳥会、笑顔つなご
ろう会、厳建設厳国彰、世光教会
敬称略

215口 2,805,668円

(2025/4/1-2026/3/31)

尚、記入に際しましては万全を期しております
が、万が一記載漏れがありましたらご一報
ください。

▶ あいりんコラム

「重度の視覚障がいがある私にとって、震災で変わり果てた街で生
活するのは難しい」と、上野平さんは京都市への移住を決断された。

能登半島地震から2年が過ぎたが、珠洲市では、潰れた家屋が
まだ至る所にあり、歩き慣れた道は陥没、行きつけのスーパーは
閉店など、復興には程遠い状態だそう。

上野平さんは、被災後、妹を頼って京都に避難し、向島市宮住
宅にて避難生活を送っていた。災害救助法による市営住宅の家賃
無償は1年、京都市独自でさらに1年継続していたが、2年間で
終了した。昨年末に珠洲市に戻るか、移住するか判断せざるを得
ない状況となったのだ。

震災により意図せず故郷を離れるを得なかったことや、知ら
ない土地での避難生活、故郷に帰れる見通しが持てない心労など
計り知れない。心身ともに体調を崩された時期もあった。でも、

震災体験の講演会も「災害時に障がいのある人がどのような状況
に置かれるか、体験した者の声を届けたい」と引き受けてくれて
いる。

京都でも地域とつながったり、ボランティアをしたり、ヘルパー
も利用して、人や地域の輪は広がりがつつある。移住を決断された
経緯に思いを馳せながら、寄り添い続けたい。

(支援センター「あいりん」 佐藤雅裕)

▶ 運転手募集 ▶

内容 愛隣デイサービスセンター

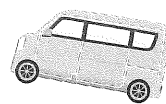
重症心身障がい者通所「シサム」での送迎

資格 運転免許 時給 1,150円

休日 木曜・日曜・年末年始・GW

時間 8:30-18:30の間 1日3-4時間程度 週2日より時間・曜日相談に応じます

待遇 交通費実費支給(上限20,000円)、自転車・バイク通勤可



新愛隣館建設後の募金のお願い

～インクルーシブ社会の実現を！～

2021年4月より、新愛隣館に戻ってまいりました。建築
費用は、自己資金と借入金のみで賄っております。つき
ましては、皆さまからのお支えを引き続きお願いしたい
と思います。これまでも、多くのお支えをいただいてお
りながら、重ね重ねのお願いで恐縮ですが、何卒よろし
くお願いいたします。

<寄付金振込先> 寄付控除が受けられます

郵便振替: 01020-5-39321

口座名義: 社会福祉法人イエス団愛隣館研修センター

* 募金目標額: 5百万円

編集後記

▼みなさまからのご意見、ご感想お待ちしております(さ)

▼2026年3月16日、辺野古沖で平和研修に来ていた高校生を乗せた船
が、突然の大波によって転覆し、高校生一人と不屈の船長の金井創
さんが天に召されるという痛ましい事故が起こった。思いもよらぬ
事故により、命が絶たれたことで、深い悲しみと嘆きの中にある遺
族、近親の方々に神様の慰めがあることを祈る。事故の原因を究明
すること、学校側の安全管理を検証することは勿論大切なことであ
ることは重々承知しているが、亡くなられた船長を刑事告発し、学
校法人同志社に対して、教育基本法違反を認定する事態に至ってい
ることには違和感しかない。平和をつくりだす活動に命を賭けてこ
られた金井創さんの遺志を継いでいきたい。(ひ)